

株式会社 大阪鶴見フラワーセンターの 今後の方向性についての府の考え方

【経緯・現状】

- 大阪鶴見フラワーセンター（以下、「FC」という。）は、大阪の産業の一つである花き市場の継続発展と府民に良質な花きを安定的に供給すること等を目的に、府内 10 の花き市場を整備・統合し、大阪府と大阪市が主体的に開設。
- 花きの安定的供給とともに、花き生産者が安心して出荷できる場を提供し、花き関連産業の振興を支えるという大阪鶴見花き地方卸売市場の公益的役割は非常に重要。
- 万一市場が停止すれば、花き市場の発展と良質な花の流通を阻害し、市場の公益的役割を果たさなくなるばかりでなく、生産者や卸売業者、買受人等多数の関係者に与える影響は計り知れない。
- しかし、花き需要の減少とともに、市場取扱高が減少するなど厳しい経営環境にあるほか、施設やセリ機の老朽化、施設譲渡問題（2022 年度末）など、大きな課題を抱えている。
- こうした中、府としては、市場設立の経緯や公益的役割に鑑み、大阪市など関係者との議論を進め、市場機能が向上されるよう、経営改善強化（役員としての提言）などの支援をしていくこととしている。

【府の考え方】

- 府としては、公益的役割を果たすために市場機能の維持が第一命題。
- 政策方針においても、市場の継続を前提に、将来像として民営化の方針を掲げており、今後の方向性を「累積赤字解消後に府保有の株式を売却。ただし、売却時期については、今後必要となる大規模修繕等を踏まえ、企業価値を見極めたうえで判断する」としているが、新たに策定する中期経営計画の厳しい収支見通しを踏まえると、企業価値をただちに高めることは難しく、株式の売却（完全民営化）は当面困難と認識。
- また、現時点で市場機能を運営・維持できるのは FC のみであり、ただちに市場開設者として FC 以外に代替できる者（法人）を探すことも困難。
- そのため、府としては、市場機能を維持するため、まずは法人の体力の範囲内で出来る限りの対応をすることとしている。（現在のところ、公金の投入は考えていない）
- 法人の新中期経営計画は、老朽化したセリ機を含む最低限の施設改修・設備更新を行いながら、市場機能の継続・成長を図っていくとともに、単年度黒字を維持していく内容になっており、府の方針に沿ったものであると考えている。

○長期的な計画では、FC、大阪市、卸売業者（2社）とも協議し、市場機能の継続・成長を図り、西日本のハブ市場を目指すこととしており、新中期経営計画以降、市場評価の向上を通じて企業価値を高め、完全民営化の実現に向けて取り組んでいく。

【課題に対する考え方】

〔大規模改修と設備（セリ機）更新による多額の費用負担〕

- ・市場開設から25年が経過し、老朽化が進む施設・設備の改修・更新に今後多額の費用を要する。
- ・H27年度末累積損失の解消に至ったところ。累積解消までの間、施設の大規模改修等のための積立金等の対応ができていない状況。
- ・法人としては全ての施設改修・設備更新に対応することは困難であるが、花き市場の運営に支障を生じないように、必要最低限の施設改修等を行っていく必要がある。
- ・更新が必要な設備のうち、特にセリ機は、現在の市場取引における根幹機能となる設備である。大量の花き取引を迅速に行うため市場開設当初より導入されているが、システム導入後20年以上経過し、部品供給が停止されるなど機能維持が非常に困難となってきた。
万一故障が発生しシステムが利用不能となれば、即市場機能が停止するとともに、これまで構築してきた市場の評価が失われ、花き市場の継続自体が危ぶまれる事態となるため、対応が不可欠。
- ・なお、セリ機の更新費用約4億円については、設備更新を実施しても単年度黒字を維持できる収支見通しとなっており、経営上支障が生じることはない。